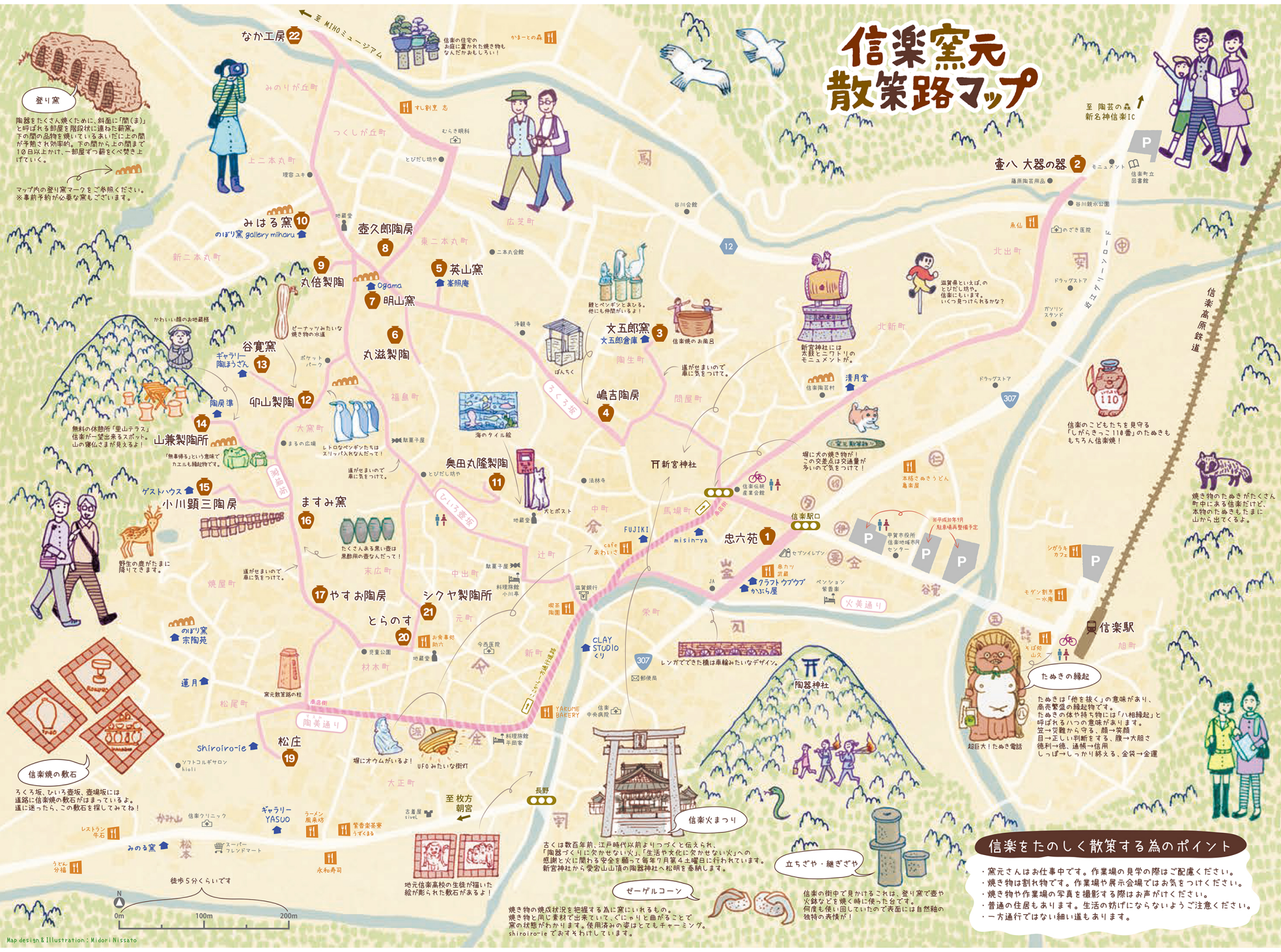


信楽窯元 散策路マップ



登り窯
陶器をたくさん焼くために、傾斜に「筒(ま)」と呼ばれる部屋を階段状に造りながら、下の階の品物を焼いているまいにち。上の階が予熱され効率的。下の階から上の階まで10日以上かか、一部屋ずつ薪をくべ焼き上げていく。

マップ内の登り窯マークをご参照ください。
※事前予約が必要な窯もございます。

信楽焼の敷石
まろくね、むらびる壺坂、壺坂には、道路に信楽焼の敷石がはまっているよ。道に迷ったら、この敷石を探してみよう！

徒歩5分くらいです
0m 100m 200m

古くは数百年前、江戸時代以前よりつくって伝えられ、「陶器づくりに欠かせない火」、「生活や文化に欠かせない火」への感謝と火に関わる安全を願って毎年7月第4土曜日に開催しています。新宮神社から安楽山山頂の陶器神社へ松明を奉納します。

ゼーゲルコーン
焼き物の焼成状況を確認する為には窯にいれるもの、焼き物と同じ素材で出来ている、ぐにゃり曲がることで窯の状態わかります。使用済みの姿はともキャラクター、shiroiro-ieでお取り扱いしています。

信楽をたのしく散策する為のポイント

- ・窯元さんはお仕事です。作業場の見学の際はご配慮ください。
- ・焼き物は割れ物です。作業場や展示会場ではお気を付けてください。
- ・焼き物や作業場の写真を撮影する際はお声がけください。
- ・普通の住居もあります。生活の妨げにならないようご注意ください。
- ・一方通行ではない細い道もあります。

ためきの織起
ためき「他を抜く」の意味があり、陶器の織起物です。ためきの條や持ち物は「八相織起」と呼ばれる八つの意味があります。並→突難く守る。崩→突難く目→正しい判断をする。崩→大層で徳利→徳。通帳→信用。しっぽ→しっかり絡める。金貨→金運。

焼き物のためきがたくさん町中にある信楽だけ。木物のためきも山から出てるよ。

信楽のこどもたちを守る「しがらき」11番のためきももちろん信楽焼！

立ちざや・織ざや
信楽の街中で見かけるこれは、登り窯で壺や火鉢などを焼く時に使った台です。何層も積み重ねていたで表面には自然釉の独特の表情が。